

## 被害者擁護者になる準備はできているか

被害者擁護者は誰もがなるものではない。これを考慮される際には、次の3つの質問を自分にしてみること。

- あなたが被害者なら、あなたの衝突 **crush** から十分な時間が過ぎていて、自分自身の話をしたいという衝動を感じることなく、他の被害者に焦点を当てることができるか？
- 他の被害者の世話をするときに、しばしば痛み押し流されてしまうか？
- あなたがもし被害者擁護者でなくても、同様に自分に対して心地よくいられるか？

これらの質問に対する答えは、次のようであればならない。

- はい
- いいえ
- はい

その理由を探ってみよう。

あなたは絶対に、(1) 人々の痛みを気遣うことができなければならないし、(2) 自分の課題ではなく他者の課題に焦点を当てる能力がなければならない。この2つのことができなければ、あなたは新たな被害者に残っているわずかな身体的・情動的エネルギーを枯渇させる排水管になってしまおう。彼らはあなたを助けなければならないと思うだろう。あなたと共に時を過ごすことで、彼らは再被害化されてしまうかもしれない。

よい助力者であるためには、共感がなければならない(被害者の目から理解しようとし、被害者の心から感じようとする)。数粒の涙は健全な共感の一部と言えるかもしれない。しかし、あなたが他の被害者の話を聞くときに、決まって「痛み押し流されてしまう」とすれば、これはあなた自身がすべき多くの仕事を持っていること確かなサインである。「押し流される感情」には、悲しみや絶望、抑鬱、怒り、個人的な激怒が含まれる。たとえあなたが飲酒運転衝突の被害者でなくても、特定の情動に押し流されるのは、あなたが自分の人生で他のタイプの喪失を経験し、それが解決されていないかもしれないというサインである。決まって「押し流されてしまう」人には、「終わっていない仕事」を探索し経験するために、よい専門的カウンセリングが有益

かもしれない。ときには、押し流される感情は、あなたが基本的には大丈夫なのだけれど、休養を必要としているということを意味する。しかし、あなたが何を必要としているかに関わらず、被害者はこの状態にあるあなたを必要とはしないだろう。

自分自身の衝突から 1 年もしないうちに十分な擁護ができる被害者は極めて稀である。実際 MADD は、少なくとも 1 年が過ぎるまでは、擁護者になることを希望する人でも被害者支援開始訓練(Beginning Victim Assistance Training)を許可しない。もしある人が 2 年目のうちに擁護の準備ができたと思うときには、擁護者になることが当の被害者、あるいは、その人が関わろうとしている他の被害者を傷つけないと確証するために、精神保健の専門家とのアセスメントが必要とされる。

健康な被害者擁護者は、他者を助けることに心地よさを覚えるが、心地よく感じるためには被害者擁護者になることを必要とはしない。被害者を電話で支援しようと直に支援しようと、擁護者は援助と救助の違いを知っておくことが肝要である。援助者は、純粋に支持的 supportive である。救助者の主要な動機は「よいことをなす」ことである。救助者は被害者が必要としている種類の援助を提供しない。以下の違いに注意し、あなたが救助者ではなく真の「援助者」になれることを確認しておきなさい (ちなみに、救助者はすぐに燃え尽きてしまう)。

#### 援助者

- 明らかに望まれているときに援助を与えるだけ。
- 援助が適切かどうかについてフィードバックを求める。
- 望まれている援助だけを与える。
- 被害者が重い抑鬱状態であったり、自殺や殺人の恐れがあるとき以外は、50%以上の力を出さない。
- 自分が心地よく感じるために援助を必要とはしない。
- 信頼の立場から動く：「私はうまくいっている。あなたはうまくいっている。」

#### 救助者

- 求められているかどうかに関わらず援助を与える。
- フィードバックを確認しない。
- 必要とされるよりも多く、長期にわたって与える。
- 常に 50%以上の力を出す。
- 善行によって自己価値の感覚を維持する。
- 優越の立場から動く；「私はあなたよりもうまくいっている。」

## 被害者擁護者

私たちは援助の手をさしのべるために、  
必要とされるときに援助するためにここにいます。  
私たちは夜明けに訪問を受けますが、  
その応答はスムーズです。

聞くことにかけては最も誠実で、  
存分に支援を行います。  
被害者の権利のために、  
最上の真心を込めてお世話します。

私たちはそれを犯罪と見なします。お分かりでしょう。  
それは傷や痛みや悲しみを引き起こします。  
私たちは彼らが勇気を持って立ち上がり、  
法廷に、そして明日に向かって立ち向かうことを支援します。

私たちの役目：巻き込まれ過ぎないこと。  
スキル以上に、探索しすぎずに、  
私たちは解決を援助するために、そして  
彼らが自らを助けるのを援助するために擁護するのです。

デニス A. ボーマン  
MADD、オハイオ

## 被害者擁護者質問紙

以下の質問を読んで、あなたに最も当てはまる答を丸で囲んでください。

1. 全てを考えあわせると、最近どのくらい幸せだと思いますか？
  1. とても幸せ
  2. かなり幸せ
  3. あまり幸せでない
  4. とても不幸せ
2. 新たな問題への対処法の評価では、あなたは危機をどれだけうまく処理できると思いますか？
  1. とてもうまくできる
  2. 十分なだけできる
  3. あまりうまくできない
  4. 流されてしまう
3. 現在、あなたの支援システムをどう評価しますか？
  1. とてもよい
  2. 満足できる
  3. ある程度に限られている
  4. 非常にまずい
4. 現在、あなたの精神的活動性の水準は？
  1. 非常に活動的
  2. ときおり活動的
  3. 思うだけで実践はしない
  4. なし

以下の質問は、衝突（事件）の被害者のみお答えください。

5. 全てを考えあわせると、衝突以前はどのくらい幸せだったと思われますか？
  1. とても幸せ
  2. かなり幸せ
  3. あまり幸せでない
  4. とても不幸せ
6. 衝突の前、人生全般に関してどれだけ満足していたと思われますか？
  1. とても満足
  2. おおかた満足
  3. おおかた不満足
  4. 非常に不満足
7. 衝突前の、あなたの精神的活動性の水準は？
  1. 非常に活動的
  2. ときおり活動的
  3. 思うだけで実践はしない
  4. なし
8. 睡眠薬を除いて、過去 30 日のうち、リラックスしたり落ち着くような処方薬または非処方薬を何日服用しましたか？ \_\_\_\_\_ なし \_\_\_\_\_ 日
9. あなたの衝突の日はいつですか？ \_\_\_\_\_  
衝突以来、人間としてのあなたにとって価値があると学んだものは何ですか。

## 質問紙を評価する

研究によれば、もっとも有能な擁護者とは、基本的に幸福であり、自分の人生に満足している人である（被害者は、衝突の前より現在の方が満足感が低いと予想されますが）。彼らは危機に向き合うことによって圧倒されることなく、概して、危機の直中にあっても問題解決をすることができる。彼らには支援を得られるような幾人かの友人がいて、彼らの家庭生活にはオープンで正直なコミュニケーションがある。精神性に関する質問は、決して精神的に活動的でない人を差別するために用いられるべきではないが、研究によれば、精神的活動性の高い人は、危機反応の仕事をやろうとすることができ、警官に対するものも含まれている。

1項目以上に“4”と答えた場合、または、3つ以上の質問に中央点（“2”か“3”）と答えた場合には、あなたの擁護者になりたいという希望を徹底的に評定すること。擁護者の仕事があなただけの気分をよくしてくれると思っているのなら、そうでないこともあり得るのである。あなたが眠るため以外に、月に2、3回以上薬物治療を受けているのなら、あなたの生活は既にストレスに満ちている。MADDはあなたのストレスに擁護の仕事を加えたくはない。

### あなたの決定

あなたの側面にどこか心配なところがあるなら、たとえあなたが被害者と共に働くうちにその点は改善されるだろうと思っても、被害者擁護者になるのはやめて、MADDの他のプログラムであなただけの才能を使うこと。私たちはそのサービスを通じて、他の被害者を再被害化するような罪を犯してはならないのである。支部にとっては、一人か二人のよい擁護者がいる方が、「善意」があってもそれだけの資質がない、あるいは準備ができていない10人よりもよいのである。

あなたの擁護者としての見込みが良いと思われるなら、MADDは以下のことをお勧めしたい：

- MADD本部、あるいは、あなたの州組織が後援する、MADD被害者支援講座にご応募ください。この40時間の講座（講座の前後の宿題を含む、週末集中トレーニング）は、全てのMADD擁護者に必修である。
- あなたに喜びをもたらすような人々、場所、物を確認すること。そして、これらを頻繁に利用できるように、もうひと努力すること。
- あなたが被害者との仕事を始める際に、スーパーヴァイズしてくれる人を確認すること。十分に熟練した被害者擁護者や、専門のカウンセラー、病院付きの牧師、その他飲酒運転による死や負傷に対して熱心な理解を持つ誰かが該当するかもしれない。これは公式なスーパーヴィジョンである必要はないが、進んで支援の定期的なソースになってくれる人でなければならない。
- あなたの擁護の仕事を向上させてくれるような分野で、継続的な教育の機会を提供してくれる、他の機関のメーリングリストに参加すること。図書館や書店で有益な本をよく調べなさい。53ページのブックリストを参照のこと。

## 被害者擁護者の倫理規程

被害者援助コーディネーターと擁護者は：

- 自分たちの主要な役割が、MADD 内部および他機関の両方で、被害者の声を代表することであると理解すること。
- 被害者／サバイバーの側の自己決定を促すこと。
- 個人的信念に関わらず、MADD の方針やガイドラインにある要項に従って被害者サービスを行うこと。
- どの被害者／サバイバーにも思いやり深く応対すること。明らかに反対の証拠が出てこない限り、あるいは出てくるまでは、意見や判断を控え、被害者／サバイバーのその出来事についての言をそのまま受け入れること。
- 被害者／サバイバーのプライバシーや機密保持についての権利を尊重し、適切な他のソースに対して情報開示を求める法律や規則にのみ従うこと。
- 全ての被害者／サバイバーの法的権利および市民権を尊重し、これを護ること。
- 被害者／サバイバーの希望が MADD の使命と矛盾する場合、適切なリファーを行い、その照会が彼らの最大利益のためにも適切なことだと保証すること。
- 本人の許可または法的な要求がない限り、メディアやどの第三者に対しても、被害者／サバイバーの名前、写真、およびその他の本人を特定するような情報を知らせないこと。
- MADD のメンバーは何人も、それが証明でき、かつ、目的にとって発展的である場合以外は、被害者、メンバー、従業員、またはボランティアに対して批判的な言明を行ってはならない。
- 同じ家族の中で、ある被害者のニーズや希望が他の被害者のニーズと矛盾するような場合には、擁護者は全ての家族成員が賛成する立場についてだけ、公的な言明を行うこと。
- 被害者サービスにおいて一貫した質と専門性を促進するため、この分野に馴染みのない他の被害者支援コーディネーターや被害者支援擁護者に対して、支援やガイダンス、援助を提供すること。
- 被害者に対してサービスを十分に提供するため、被害者サービスにおける全ボランティアが適切なトレーニング、スーパービジョン、資源、支援を利用できていることを確認しよう。
- 指揮系統にしたがって、被害者／サバイバーに対して誤った処置 mistreatment（虐待？）を行った同僚の行為は、まずは支部長 chapter president に、次いで州の長 state chair に、または最後に、被害者サービスの本部長 national director に対して報告すること。
- 認可を受けた、あるいは資格のある専門家であれば、その専門の倫理基準に拘束されるべきである。